

染物

36期生

I テーマ設定の理由

最近、着物や染物などの広告がよく見かけるようになり、関心を持つようになりました。でも、染物についてはぜんぜんといっていいほど歴史などについて書いていない、着物については、いろいろと書いてあるので、『染物について、いろいろと調べてみよう！』と思い、このテーマにしたのです。

II 研究方法

- (1) 人に聞く……専門の人やデパートの売り場の人に、くわしく、染物について話を聞く。
- (2) 本を読み、研究する……疑問をなくす。
- (3) 実際に染める……8～10種類、自分で染めてみる。
- (4) 他、いろいろと布によるちがいや、染め方によるちがい……など実験する
- (5) まとめ……最後に、染め方の美しい方法を自分なりにまとめる。

III 研究結果

☆1 染物について

染物にも、草木染と化学染料との両方の染め方がある。また、草木染の中には、すりつけて色をつける一すり染と、ぐつぐつとにせんじ薬的なもの、の2つの染め方があります。ここで、草木染と化学染料とを比較してみると、

	目的	安全面	染めぐあい
草木染	昔から、染めているけれど色が一定に決まる。今、している人は専門家などで、している人が少ない。	草木染は、研究も長く安全で、かぶれたりするものは、少ししかなく、食べても、大丈夫なものがほとんどである。	その人によっていろいろとちがう。とった草木の場所がちがっても色がちがう。
化学染料	自分の好きな色、欲しい色がつくれ、最近の染物は、ほとんどの人が、こちらをしている。	こちらは、手についたりしたらいけないというものが多く危険性が高い。おなべなども、専用の物が必要です。	ほとんど、だれがしても同じ、だから、あまり実験としては、おもしろくないが、これを何色に染めたい、という時便利

……これから、実際に草木染をしようと思ったのです。

★2 染め方

A 1. 草の量をはかり、ナベに入れ、水を加える。

(つかるくらいの水の量)

2. ガスコンロで煮る。(弱火あるいは、中火)

3. 20分ほど煮て、水に色がついてきたら、布を入れる。

4. 布を入れて、火は弱くして、煮つけ、ときどきはしで布を返す。(20~30分)

5. 布をひきあげ流水で、さっと洗う。(10分ほど)

B 1. 草の量をはかり、ナベに入れ、水を加える。(Aと同じ)

2. ガスコンロで煮る。(弱火で)

3. 1時間ほど煮ると、火を消し、布を1時間ほど入れる。

4. 1時間たつと、布をとりだし、また1時間ほど煮る。

これを、3・4回くりかえす

煮ている間、布は、日かけ干しする。

5. 最後、日かけ干しがおわると、流水でさっと洗う。

～結果～

Aの方(時間1時間ほど)で染めると、色の変化が少なく、実験としてはあまりむいていない。Bの方は、(時間6.5時間ほど)で染めると、色の染まりがよく、実験としてもむいていている。しかし、3回ぐらい染めると染まる色の変化がない。結局染める回数は3回ほど、流水で洗うと色がきれいにむらがなくなることに、気がついた。

こうして染めた、染物は草木をそのまま煮た色で、“色に種類がない”ということ、媒染剤(ばいせんざい)というもので、色をかわらせます。

※ 媒染剤とは、灰汁・木酢酸鉄などをいい、薬品の成分と結びつかせ、染物の色を変えることです。

★3 染め方についての細かい実験

A 媒染剤について

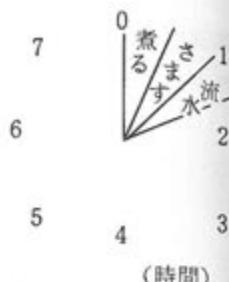
みょうばん・木酢酸鉄・石灰と水との割合について、濃度をかえていくと、

・みょうばん — たいして変化しないが、濃度が高くなると、布がかたくなり、色にむらができる。

・木酢酸鉄 — 濃度がたかくなると、色が黒色になり、実験結果にならないので50%以下でないといけない。

・石 灰 — 色の変化が少ない。

B 洗たくについて



I. 一回だけ染めるよりも、3回ほど染める方が、色落ちがしない。

II. 水洗い・石ケン・中性洗剤など、の効果は、さほどはげしい差はない。

C 布によるちがい

1. ポリエステル65% 麻35%の布

あまりきれいに染まらなかったが、水洗いしても、色落ちはあまりしませんでした。

2. 綿100%

最近、綿100%でも加工されていて、きれいに染まらなかった。

3.さらし綿100%

きれいに染まり、もっともできしていると思う。

4. ブロード綿35% ポリエステル65%の布

色が悪く、洗たくすると、色おちする。

5. アクリル100%

色の染まりが少し変だが、きれいに染まる。

布の種類 染まり方	ポリエステル65% 綿 100%	アクリル 100%	綿 & さらし綿 100%	ブロード綿 35% ポリエステル65%
色	△	×	○	×
染まり方	○	○	○	△

これから、染め物には、やはり、さらし綿100%又は、綿100%がむいていて、布が加工されているもので染めると、色が悪かったり、染まりが悪い。

IV 染物

今までの実験を、1つのやり方にまとめたものです。

1. 染める草木を探す(実験したのは、どんぐり・もみじ・すすき・たまねぎ・もも・かき・番茶・紅茶です)

2. それらの草木を、分量をはかりなべに入れ、水を加える。

3. 一時間ほど弱火で煮る。

4. 一時間たつと、火を消しなべの中に布(綿100%)を入れる。

5. 冷めると、布をとりだし、又煮る。(これを3回くりかえす)
煮ている時は、布を日かけで干しておく。

:

そして媒染剤に

6. かわかした布を、自分で作った、媒染剤の中に1~2分入れる。

7. すぐに、水洗いをする。

→
 5~10%のみょうばん
 50%以下の木酢酸鉄
 5~10%の石灰

8. しわをのばし、日かけで干す。

9. 二・三時間後、とりいれる。

— 完成 —

～ 染めに使う草木 ～

これらの実験では、どんぐり・もみじ・すすき・たまねぎ・梅・柿・番茶・紅茶しか実験をしませんでしたが、実際には、くりの実・うめのえだ・よもぎ・ばらの葉・くちなしの実などでも染められるのです。

～ 実際に使った草木 ～

- 。あらかしどんぐり — 生駒へ行って採集、葉を煮る
- 。もみじ ————— 家の庭のもみじで、葉を煮る
- 。すすき ————— 生駒へ行って採集、葉を煮る
- 。たまねぎ ————— 家で集め、皮を煮る
- 。もも ————— 家の庭で採集、葉・えだを煮る
- 。かき ————— 家の庭で採集、葉・えだを煮る
- 。番茶 ————— 家にあるので
- 。紅茶 ————— 家にあるので

くりの実でしなかったのは、季節がちがうかったからです。10～11月の実験としては、むいている。うめは、家にあるけれど、色が、ももとかと変化がないと、言われました。よもぎは季節はずれ、ばらは、もう散った後だったのでやめました。

V 染めものの研究をおえて（反省・感想）

はじめ、どのように実験したらよいか？など、考えすぎて、やる時間が少なかったので、もう少し上手に実験したらよかったナ！と思っています。私は、草木で染められると考えた昔の人の知恵には、感心しました。化学が発達している今、化学染料におとらない美しい色がだせる草木染を見いだした先人のこうせきにおどろかされました。

現代では、ほとんど化学染料にたよりがちだが、もう一度、自然の色をもつ天然染料を見直してもよいのではないかと思っています。